



Library Liébana

2024年3月度展示内容のお知らせ

【今月のベアトゥス写本】

今月は新しく入ったトリノ写本とその元本であるジローナ写本の比較とともに、トリノ写本が制作された12世紀前半と同時期の写本を展示します。

【ベアトゥス黙示録写本より】



(ジローナ写本)
975年



(トリノ写本)
12世紀第1四半期



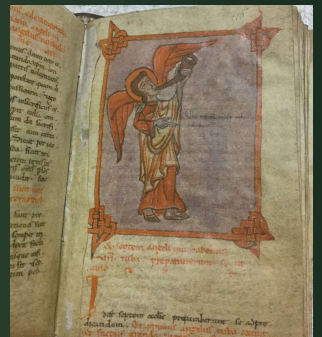
(サン・スヴェール写本)
11世紀第3四半期



(オスマ写本)
1086年



(シロス写本)
1091年(写字)
1109年(挿絵)



(コルシーニ写本)
12世紀第2四半期?

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

3月の開館日(予定)
水・木・金・日曜日
(HPで確認下さい)

Google Map



愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
(西町5丁目北交差点の
外側階段を降りて下さい)
10:00~17:00



H.P.



Instagram



ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。

2024年3月						
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
(休)	(休)	10:30 -17:30	13:00 -17:00	14:00 -17:00	2	3
4	5	6	7	8	9	10
(休)	(休)	10:00 -17:00	10:00 -17:00	10:00 -17:00	(休)	(休)
11	12	13	14	15	16	17
(休)	(休)	10:00 -17:00	10:00 -17:00	10:00 -17:00	(休)	(休)
18	19	20	21	22	23	24
(休)	(休)	(休)	(休)	10:00 -14:00	(休)	(休)
25	26	27	28	29	30	31
(休)	(休)	(休)	(休)	10:00 -14:00	(休)	(休)

3月3日(日)、17日(日)、20日(水)、21日(木)、
27日(水)、28日(木)はお休み

3月1日(金)は14時開店

3月22日(金)、24日(日)、29日(金)は14時閉
店です

ベアトウスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトウス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトウス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気をお楽しみください。

今月の展示写本

新たに加わったトリノ写本を中心に、元本のジローナ写本と比較するとともに、トリノ写本と同時期の11世紀後半～12世紀前半の写本を展示します。

【ジローナ写本】

114点の挿絵はほぼ完全な姿で残っており、写本の大きさも縦が約400mmもあり、12世紀以降に制作されたマンチェスター写本などを除けばウルジェイ写本と並び当時最大の写本でした。

挿絵は、イスラムの影響を受けたモサラベ風の建築物や服装などが多くみられる。幾何学的な形状、豊かな色、装飾された敷地、様式化された人物といった形に、イスラム美術と装飾的伝統が混ざって表現されている。

写本の最後の署名から、976年7月6日におそらくタバラの修道院で完成しました。挿画はエメテリウス(タバラ写本も制作)とエンが行いました。

挿画はエメテリウス(タバラ写本も制作)とエンが行いました。エンは女性名で修道女と考えられます。このことから女性も写本の制作に参加していたことがわかります。(当時の修道院は男女が厳密に分けられていなかった)

【トリノ写本写本】

本写本は、975年に製作されたベアトウス写本ジローナ本を、12世紀のカタルーニャで写したものとみられる。

ただし挿絵は12世紀風アレンジされている。(久米順子「スペイン中世写本の楽しみ 慶應義塾所蔵資料を中心に 展示資料解説」より)

106点の細密画(ベアトウス注釈書に93点、ダニエル書に13点)が収められており、挿画師はジローナ写本の構図を踏襲しているが、色彩や衣服の描き方に関しては、いわゆるモサラベ様式ではなく同時代にふさわしいロマネスク様式に移行している。

【サン・スヴェール写本】

ベアトウス写本の中で唯一ピレネー山脈を越えたフランスの修道院で制作された写本。

挿絵は2頁大の挿絵が5点、全頁大が36点あります。モサラベ様式の中にロマネスク様式がまざった挿絵が見られる。例えば新エルサレム(f. 207-f. 208)では建物全体はモサラベ写本のように正方形で構成されていますが、アーチは馬蹄形ではなく半円形のアーチが描かれています。

【オスーマ写本】

ファクンドス写本より少し遅れて完成した写本で、すでにロマネスク様式が入りつつあったのがさらに進んでいる挿絵の様式です。(建築の馬蹄型アーチがモサラベ様式の痕跡として残っている)挿絵は濃い赤や黄と共にエメラルドグリーンや薄青の背景色が特徴です。特にエメラルドグリーンは他に例を見ない美しい色調です。

【シロス写本】

サントドミンゴ デ シロス修道院で制作された本写本は、修道士ムーニョとドミニコが写字を、ペトロスが挿画を行ったことが書かれています。挿絵をすべて書き終えたのは、写字が終わってから18年後の1109年でした。

【コルシーニ写本】

12世紀初頭にスペイン北東部のアラゴン地方で作られたと推測される。ベアトウス写本の中でも縦17cm 横9.5cmと一番小さな写本であるが、そのことによってベアトウス写本特有のユニークな魅力が深まっている。